研究室探訪

出血・血栓の予防および治療に貢献する検査法を研究中。

医療学部 臨床検査学科 准教授 松本 智子

――どんな研究をしていますか？

血液は血管の中でもかさぶたと同じように固まる性質を持っています。その仕組みは血管をふさがないよう血を固める凝固と、溶かす線溶がバランスよく働いていることで成り立っています。その働きの変化を測定し、血が固まる速さやタイミングなどを詳しく調べる、新しい検査法を研究しています。

――研究の魅力やおもしろさを教えてください。

新しい発見に出会えた瞬間です。血液凝固に関連するタンパク質のフィブリンが、血が止まりにくい（血友病など）患者の血液では早く溶けることをみつけた時、胸がとても高鳴ったのを覚えています。

――研究内容は、社会や世界とどのような「つながり」を生み出しますか？

新しく開発した検査法は、将来、世界へひろがる可能性があります。また、この方法は手術室などの体外循環の分野で活用されることも期待されています。こうしたつながりを通して、患者の出血や血栓の診断・治療・予防に貢献したいと考えています。

――在学生や受験生にメッセージを。

研究は、特別な大学や限られた人だけのものではありません。天理大学には、少人数だからこそ一人ひとりと向き合い、研究の最初から最後まで関われる環境があります。「なぜだろう？」と考え、試し、確かめ、その結果を医療の専門学会で発信する経験も積み重ねることができます。楽しみながら学び、現場につながる「医療研究」に挑戦してみませんか。

創立100周年記念企画

Flashback ― あの、歴史的瞬間。

創立の年に入学した1期生たち

天理大学の前身、天理外国語学校第1回の卒業生は51名でした。卒業後は天理教教会関連に従事したり、教員や経営者などさまざまな方面で活躍しました。なかには共同通信社にて東亜部長やバンコク支局長、国際資料室初代室長を歴任した人物もいました。また、ロシア語部卒業生の稲田儀一氏は、本学の教授として40年以上にわたりロシア語教育の発展に尽力しました。

天理市周辺のいいものをご紹介

Pick up! 天理

大和高原で自然栽培された番茶でホッとひと息。

天理市福住町で農薬・肥料不使用にこだわり茶葉を育てる健一自然農園が、3年以上育てた茶木を丸ごと収穫し焙煎した「里山三年晩茶」。茶葉だけでなく枝から幹まで余す所なく使った番茶は、渋みがなく香ばしい風味とホッとする味わいで、小さなお子さんにも人気です。2025年4月には大阪・関西万博でも販売され、話題になりました。天理市立福住小中学校の生徒たちが描いたカラフルなパッケージは、華やかでおみやげにもおすすめです。

i CONNECT Shopで販売しています！

里山三年晩茶 580円

天理大学が運営する天理駅高架下のi CONNECT Shop。本学グッズや天理市の名産品などが並ぶこちらのアンテナショップで、健一自然農園が手がける「里山三年晩茶」は人気商品の1つです。

[i CONNECT Shop] JR「天理」駅改札横
OPEN：9:00～18:00　定休日：なし

発行元 天理大学 ― 編集 天理大学入学部広報課 ― 住所 〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050 ― TEL 0743-63-9006 ― 発行日 2026年3月 号数 4号（Total 258号）

CONNECT

天理大学広報誌

Vol. 04

社会につながる 天理のキャリアサポート

TENRI UNIVERSITY

天理大学 文学部 歴史文化学科卒
福井県立歴史博物館 伊藤 大生さん

天理大学文学部（現・人文学部）歴史文化学科を卒業後、筑波大学大学院を経て、福井県立歴史博物館に学芸員として勤務。

何が好きか。何を追求したいか。突き詰め、貫いた先に今の自分がある。

「後から気づいたことですが、子どもの頃から漠然と『好きだなぁ』と思っていたことが今につながっています」。

そう振り返るのは、2016年に天理大学文学部（現・人文学部）歴史文化学科を卒業後、筑波大学大学院を経て、現在は福井県立歴史博物館に学芸員として勤務する伊藤 大生さん。今年で5年目を迎える歴史博物館での主な業務は、大きく分けて3つあると教えてくれました。

「博物館は地域の古いものを預かったり、寄贈を受けたりします。1つ目はそれらの収集保管。2つ目は、その意味や価値を調査・研究すること。3つ目は、その成果をもとに講演や展示を行い、老若男女のさまざまな方に紹介することです。福井県の歴史に少しでも興味を持ってもらうことが目的なので、『自分が住む場所は何もなくつまらないと思っていたが、実は歴史があると分かってすごいと思った』『がんばって生きてきた人たちの歴史が、今の自分につながっている。自分も歴史の一部だと思えた』などの声をいただくと、心からうれしく思います」。

多岐に渡る業務を担う伊藤さんですが、天理大学在学中は、現在とは異なるアプローチで歴史を研究していました。

始まりは、生まれ育った村への思い。

「今は歴史地理学という分野で研究していますが、もともとは民俗学を学びたいと思っていました。特に、村で語り継がれてきた伝説や歴史に興味があり、それを深く学べる学科が天理大学の歴史文化学科だと思い、進学しました。なぜそういうことに興味を持ったかというと、私自身が福井県の農村出身、いわゆる村で生まれ育ったからなんです。穏やかな自分の村のことが昔から漠然と好きだなあと感じていて、なんとなく話を聞いたりして調べ始めました。すると村に歴史があって、神社や、そこに伝わる伝説あって…と、どんどん惹き込まれていきました」。

天理大学では多くの学びがあった、という伊藤さん。少人数制できめ細やかな指導があるのはもちろん、歴史文化学科のゼミは課外授業が頻繁にあり、今でも当時のことは印象に残っているといいます。

「とにかく外に出て現地で歴史に触れる授業が多かったですね。大学の近くの山の辺の道を散策したり、奈良市にある春日大社のお祭りを見学したり。授業だけでなく、ゼミの仲間と夜行バスに乗って全国各地に行き、レンタカーで現地を回ったりもしました。その土地の特産品を食べて、なぜそういうものが作られているのかなど、疑問が浮かんだらその場で聞く、ということをよくしましたね。それから、先生の推薦で、他大学と共同で行われたグアムでの遺跡集落の発掘調査にも参加しました。そうした体験の中で、古いものを調べる方法や価値を教えていただき、多くの学びがあったと感じています」。

新しい視点を与えてくれた先生の問いかけ。

そんな大学生活を送る中で、伊藤さんが心癒されていたのが天理周辺の景色だといいます。

「天理周辺は『景色がいい』んです。自然に囲まれながら、歴史ある村の景色がひろがっているんですよね。毎日眺めながら『いい景色だなぁ』『ものすごく好きだなぁ』と。その気持ちが『どんな風にしてこの景色ができるんだろう』という思いに徐々に変わっていきました」。

新しい関心を持ち始めた伊藤さんが卒業論文を進める上で、指導をしたのが歴史文化学科の齊藤 純教授でした。

「伝説や伝承をテーマにした私の卒論について、齊藤先生が、『その語り継がれてきた伝説や伝承は、それだけでは存在しない。必ず語り継いできた人がいる。その人たちがどうやって生きてきたのかというところまでを見る必要があるんじゃないか』と投げかけてくださったんです。確かにその視点は必要だとハッとしました。同時に、私は漠然と村が好きだと思っていたけれど、実はもっと複合的な理由で村そのものが好きだったんだなとはっきり自覚しました。その村の人たちの暮らしの積み重ねが今の村という景色になって現れている、という風に理解することができたんです。伝説や伝承だけでなく、なぜそこに田んぼや畑、神社があるのか、どのような農業や商業が行われてきたのか、人々がその地域でどう生きてきたかを調べ始めると、ただ好きだと思っていた景色が、極めて重要な資料になりました。その後、景色そのものを分析対象とする歴史地理学という分野で研究していくきっかけになった出来事でした」。

調査の相棒は大学1年生の時にアルバイト代を貯めて購入した一眼レフカメラ、バインダーに挟んだメモ用紙と鉛筆、繊細なものでも計れる柔らかい素材のメジャー。とにかく記録が大事です。

MY MUST!

生まれ育った場所で歴史を伝えることが恩返しであり、やりがいでもある。

大学院では歴史地理学を専攻し、自身の故郷である福井県の九頭竜川流域の村々について研究を開始。九頭竜伝説が残る地域で、地名の由来や語り継がれている理由、どのように村が存続してきたのかなどの疑問を追究しました。

「そのうちに生まれ育った地域の歴史を伝えたいと思うようになりました。誰よりも調べ、調査に協力してくださった方々への恩返しの思いも込めて発信したいと」。

そんな時、福井県の各地で調査を続ける中で、歴史博物館の学芸員募集を知った伊藤さん。狭き門といわれていますが、自分の力を試すつもりで応募しました。

「運よく採用され今に至りますが、大学時代に培った力が今、仕事に生きていると日々実感しています。調査力、観察力、考察力、そして文章力ですね。もちろん先生方からの指導もありましたが、当時の私の好奇心のままに、自由に調査や研究などをさせてもらえたことは、本当にありがたかったです。その土地の人にどんどん声をかけて話を聞く、“調べる”ということについて背中を押してくださいました。大学附属の天理参考館にもよく足を運びました。所蔵品が充実していて、いろんなものを見たり、博物館実習では触らせてもらったりしました。歴史を学びたい学生にとって、天理大学の環境はもってこいの場所だと思います。私が今、学芸員として生まれ育った地域の歴史を伝えているのは、自分は何が好きなのかを追求してきた結果です。歴史を伝えた方に、よく『住んでいる場所の景色の見え方が変わった』と感想をいただきますが、それこそが歴史を知るということ。私の喜びであり、やりがいを感じながら日々を送っています。ぜひ、学生の皆さんにも好きなことを貫いて、そして突き詰めてほしいですね」。

地域と人をつなぎ、誰かの挑戦を支える“力”になる。

天理大学 体育学部 体育学科卒
天理市商工会 藤山 侑加さん

天理大学体育学部体育学科を卒業後、金融機関勤務を経て、天理市商工会に勤務。

地域には、大企業だけでなく、小さな店や個人で働く人など、実に多様な“働く人”がいます。中小企業や個人商店、家族経営の会社やフリーランス、また『これから事業を始めたい』、と夢を抱く人たちです。そんな地域の人たちを支えるのが、商工会という経済団体。藤山 侑加さんは、天理大学体育学部体育学科を2017年に卒業後、金融機関を経て天理市商工会に就職し、この春で4年目を迎えます。主に担当している業務は、雇用保険に関する手続き業務です。

「商工会の会員である事業者さんは日々の業務でお忙しいですから、その中で事務委託という形で手続きをサポートするのが私の仕事です。たとえば従業員さんの入社や退職の際に、各種届出や離職票の作成をしたり、育児休業給付金の申請をしたり。さらに助成金や補助金の申請支援に加え、税務に関する業務にも携わっています。確定申告や年末調整、各種税務書類の作成支援など、事業運営に欠かせない税務面のサポートも行い、事業者の皆さんが本業に専念できる環境づくりをお手伝いしています。経営の相談だけでなく、起業したいという方もいらっしゃいますし、相談内容は本当にさまざま。何から始めたらいいのか分からない、という状態で来られる人も珍しくありません」。

だからこそ大切にしているのは、まず話を聞くこと、と藤山さん。事業の規模や業種に関係なく、その人がめざしている方向を受け止め、必要な支援につなげていきます。

「初めて一人で案件を担当した時は、わからないなりに自分で調べて、事業者の方に何度もヒアリングし、計画書を作成しました。許可が下りた時は、ひと安心すると同時に、大きな達成感が込み上げてきました。どの案件もそうですが、すべての手続きが終わって、“助かりました”と言っていただけると、少しでも力になれたのかなといつもうれしく感じますね」。

逃げずに向き合う姿勢と社会の“当たり前”を学んだ学生時代。

そんな藤山さんは高校から天理大学時代、ソフトボール部に所属していました。当時の経験が今の仕事に活きていることもたくさんあるという藤山さんですが、試合ではプレッシャーに押されて自信を持てない時期もありました。

「先輩の代わりに試合に出る機会をいただき、ありがたいことではあるのですが、緊張が先に立ってしまって、ミスもするし…試合中、いっそメンバーから外して欲しい、というオーラが出ていたと思います（笑）。ですが当時の監督は、あえて私を外しませんでした。そのまま続けることで、成長して欲しいと考えてくださっていたと、引退してから聞きました。実際、2年次生の頃はピンチの際、『ボールよ、こっちに飛んでくるな』と祈っていたのに、引退前には『飛んでこい!』と思えるほどメンタルが鍛えられ、チームに貢献できるようになっていました。苦手なことも、逃げずに踏みとどまる。その姿勢は、今の仕事にも確実につながっています」。

また『社会に出た時に困らないように』と、私生活の面でも厳しく指導していただいた、と藤山さんは振り返ります。

「時間に遅れない、人の話をちゃんと聞く、身だしなみを整える…『当たり前のことを当たり前にする』ということを教えてくださいました。これは今の私のすべてにちゃんとつながっているので、とても感謝しています」。

卒業生として、後輩の力になりながら自分も成長していきたい。

現在、天理市商工会は、天理大学と包括連携協定を結び、学生と地域事業者をつなぐ取り組みを進めています。藤山さんは天理大学の卒業生として、この連携に特別な思いがあるといいます。

「大学と社会がこれからもつながり続けるための、ご縁のように感じています。私が担当している業務のひとつが、インターンシップの提案です。学生の希望や関心を伺いながら、それにあった商工会の会員企業をご紹介する、学生と企業をつなぐ取り組みです。双方にとって安心・信頼できる関係づくりを意識しながら、それぞれの理解を丁寧に深めて、無理のない形でつなぐことを心がけています」。

インターンシップ制度などを活用し、学生のうちから地域の企業と関わることに、どのような意味があるのか―― 藤山さんは力を込めて語ります。

「教室だけでは分からない“現場のリアル”を体験することで、学んできた知識や視点が役立つ場面を実感できます。一方で、『学びがそのまま通用するわけではない』という現実にも向き合うことになります。実際に社会の一員として働いてみると、相手の立場を理解する力や、状況に応じて考える柔軟さが養われます。こうした経験の積み重ねが、将来を具体的に考えるきっかけとなり、進路を選ぶ上での判断軸の土台になるのだと思います」。

だからこそ、学生や大学にとって商工会が少しでも身近な存在になるよう、藤山さんは日々尽力しています。

「インターンシップを通して、学生が地域で働く選択肢もあると知り、結果的に天理市に留まって、地域の一員として活躍するきっかけが生まれていけば、とてもうれしいです」。

そのために大切なのは、学生にとって『自分の学びや関心を活かせる仕事の選択肢が地域にあること』と、『生活やキャリアの相談ができる場所があること』だと藤山さん。

「天理大学のキャリア支援課は、まさにその場所。ぜひ積極的に活用してほしいですね。そして地域や企業が、学生の成長や意欲を受け止めながら関わり続けることができれば、学生たちも天理市で働くイメージを描きやすくなると思います。学生一人ひとりが自分に合った働き方や居場所を見つけられる環境を、地域が整える。それが、長く地域で活躍してもらうために必要なのだと感じています。私もその一端として、母校の後輩たちの未来を支える、“縁の下の力持ち”でありたい。そんな思いで、日々の業務に向き合っています」。

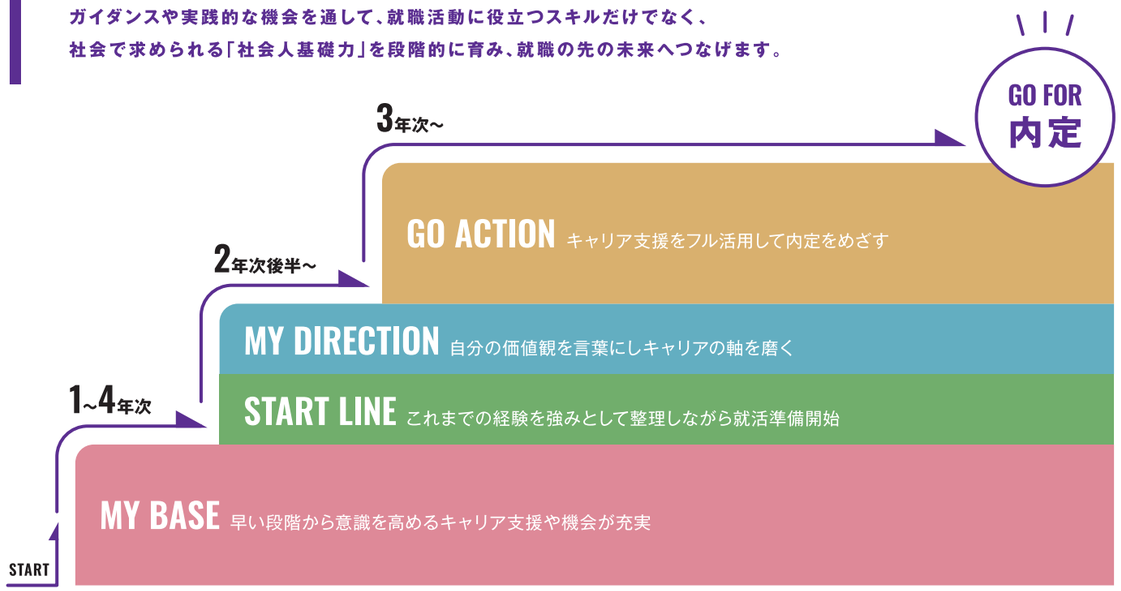
天理大学生の明るい未来と、地域の発展を心から願う藤山さん。『日々、“ありがとう”のひと言に支えられています』と語るその笑顔から、地域へのまっすぐな想いが伝わってきました。

MY MUST!

担当する事業主とは何度も面談するため、相談や雑談の内容をメモして見返し、コミュニケーションを円滑に進めます。多種多様な制度や給付金を調べて覚えるためにも、メモ帳は必須アイテム。

天理大学のキャリア支援

天理大学では入学直後から未来を見すえたキャリア支援をスタート。
ガイダンスや実践的な機会を通して、就職活動に役立つスキルだけでなく、
社会で求められる「社会人基礎力」を段階的に育み、就職の先の未来へつなげます。



MY BASE
学生生活を通して“自分”を深掘り

- キャリアプランニング（1年次生）
- キャリアデザイン（2年次生）
- 各ガイダンスでマインドセット（1・2年次生）
- インターンシップ（奈良県インターンシップ推進事業 他）
- 就職支援講座・資格講座
- 資格試験・模擬試験の学内受験

START LINE
勉強会や対策、自分の経験の振り返り

- マナー対策
- 各筆記試験対策→SPI勉強会
- 履歴書、エントリーシートの作成
- 実践的な面接対策
- 教員採用試験対策
- 公務員採用試験対策

MY DIRECTION
自分の価値観とキャリアをつなぐ

- 業界・職種・企業研究
- 志望動機の作成
- インターンシップ
- 就職採用試験対策
- 内定者・卒業生の就活体験談

GO ACTION
就職・進路活動本番

- 学内企業説明会、学内求人フェア、個別相談会
- 企業セミナー、説明会
- 会社訪問・見学、OB・OG訪問
- 選考型インターンシップ
- 内定報告、就職準備

充実した個別サポート

教職一体の支援体制

天理大学では、キャリア支援課職員と担当教員の連携により、学生全員と1対1で向き合い目標達成に向けて全力でサポートします。学生が主体的に進路を選び、人生を切り拓くことを主眼に、一生の財産となるキャリア観の構築や仕事への基本姿勢、マナーなどもお伝えします。

キャリアテラス

個別の企業説明会や就活セミナーなど、キャリアにかかわるイベントをアクティブに体験できる場所として、キャリアテラスを設けています。グループワークができる環境や情報収集するためのPC、また教員・公務員・就活のための資料も豊富に取りそろえています。

キャリアコンサルタント

キャリア支援ルームでは、専門資格を持つキャリアコンサルタント・CDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）を招き、就職活動をサポート。履歴書の書き方や模擬面接など、就職活動にまつわるどんな悩みや疑問も気軽に相談することができます。

教員・公務員就職に向けた各種対策・サポート

教員採用試験や公務員採用試験に向け、各種模擬試験を実施します。「教員採用試験対策講座」では、教職教養・面接・集団討論対策を通じて、教員採用試験合格に向けてサポート。「公務員教養試験対策講座」では、公務員一次試験をはじめ面接や論文対策などをトータルで支援します。

数字で見るキャリア実績

気になる就職率から求人件数、国家資格合格率まで。天理大学のキャリア支援の成果を数字でご紹介します。

キャリアアップ講座
10講座開講
年間受講者数 約120名

就職率
全学5年連続 95%超
体育学部5年連続 98%超

天理大学卒業生社長リスト
約260名輩出
帝国データバンク調べ 2025年実績

地元就職に強い

奈良県就職率		関西就職率	
2022年度	23%	2022年度	64%
2023年度	27%	2023年度	63%
2024年度	31%	2024年度	63%

各種資格試験、国家試験合格率
社会福祉士国家試験 3年連続 80%超
第26回 精神保健福祉士国家試験 100%
第114回 看護師国家試験 97.4%
全国平均は、90.1%

求人数
2024年度卒 242,478人分
就職希望者数 536名

学内企業セミナー参加企業数
2022年度 55社 2023年度 66社 2024年度 74社

教職課程登録者数
2024年度卒 227名

教員免許取得者数
2024年度卒 144名

企業からの声

KeePer技研株式会社
オリジナル洗車用ケミカルと機器の開発・製造・販売

キーパーラボ運営事業部 関西地区担当 高田 友輔さん
天理大学 体育学部 体育学科
2025年3月卒業/2025年4月入社 中村 岳斗さん

真面目で仕事が丁寧な中村さんは、ただ仕事をこなすだけでなく、お客様に喜んでいただくことを一番に考え、いつも主体的に取り組んでいます。お客様からたくさんのご要望をいただく場合も、満足していただける品質で施工できているので、お客様からも周囲からも信頼を寄せられる存在ですね。入社1年目とは思えない的確な判断と行動で、助かっています。これからも、お客様により頼られるスタッフとして邁進してください。

天理大学生の皆さんへ
進路先は妥協せずに決めてください！楽しいと思える仕事、責任を持って向き合いたいと思える仕事が一番だと思います。

日本パナユーズ株式会社
商業施設・病院などの施設警備・建物管理・公園管理業務

江坂公園 副総括責任者 末吉 一生さん
天理大学 文学部 国文学国語学科
2024年3月卒業/2024年4月入社 森村 奈実さん

森村さんが所属する江坂公園の業務は、公園管理に加え併設する江坂図書館の業務も担っています。森村さんは大学で取得した図書館司書の資格を活かし、時には図書館職員としても活躍してくれます。常に明るく前向きで、夏場の清掃も手を抜かず、細やかな気配りを欠かしません。その働きぶりに職場からの信頼も厚いです。将来は中心的な存在として、子どもたちのために江坂公園を守り続けて欲しいですね。

天理大学生の皆さんへ
弊社では年齢に関係なく、実力ある人は責任者のポストに抜擢され活躍しています。興味のある方は、ぜひ弊社の門を叩いてみてください。

インターンシップで“働く”を 知る。

天理大学のさまざまなキャリア支援の中でも、より実践的に「働く」ことを体験できるインターンシップは、進路を考えるための学びの場。仕事に対する明確なイメージを描き、自分の職業適性を考えるきっかけになります。

モンベル天理店

天理大学は株式会社モンベルと「天理大学・モンベル共同体」を結成し、その一環としてインターンシップを導入しています。2025年度は、2名の学生がモンベル天理店でのインターンシップに参加しました。

学んだことは、活かされる。

迷わず応募して大正解!

経験から強く実感できました。

アウトドアブランド「モンベル」でインターンができると知り、もともと登山やラフティングを通してアウトドアの楽しさを父に教えてもらっていたことから、迷わず応募を決めました。インターン期間中は商品知識の勉強をすることが多く、マネキンのコーディネートを任された時は勉強したことを活かして、季節感とその時売り出したい商品を考えて組み合わせました。自分が選んだダウンジャケットが売れた時は、お店に貢献できたことがうれしかったです。働く中で、スタッフさんが語るいろんなアウトドアの魅力を聞きながら「登ってみたいな、やってみたいな」とワクワクしている自分に気づき、好奇心旺盛な自分の新たな一面を知ることもできました。また、天理店では山の辺の道をモチーフにしたTシャツも販売しており、私が歴史文化学科で勉強した知識を活かしてお客様とお話できた経験は、「学んだことはちゃんと活かされる」と実感できたいい思い出です。インターン後、モンベル アウトドアヴィレッジ奈良店でアルバイトさせていただくことになったので、両方の経験を就職活動でも活かしていきたいと考えています。

齋藤 元壽さん　文学部 歴史文化学科 3年次生

自分が好きなことを仕事にしたら、働き方に深みが出ると知りました。

授業でモンベル五條店を訪れる機会があり、興味を持った頃にインターンの募集を知りました。モンベルの代表取締役会長である辰野勇さんが語っておられた「興味を持ったことには挑戦した方がいい」という言葉にも背中を押され、挑戦することに。印象に残っているのは、スタッフさんが自分たちのアイデアを活かして商品開発や店内レイアウトに取り組む姿です。「自分の好きなことを仕事にしたら、知識や思いをより深めることができるんだ」と感じました。私が主に担当させていただいたのは、品出しや棚に並ぶ商品を整える業務ですが、スタッフの一人として接客することもあり、お客様の立場に立って考える重要性を実感しました。インターン中は知れば知るほどモンベルにハマり、今ではお気に入りの商品も手元にたくさんあります。実際に商品を使ってみることで、その商品の魅力を伝えやすく、わかりやすい説明ができるんだという発見もありました。振り返ると反省点もありますが、この経験を活かして、何事も積極的に、自分から行動していきたいと強く感じています。

吉村 紗歩さん　体育学部 体育学科 3年次生

一緒に成長しよう!

寺田 昌平店長からのコメント

インターンシップを通して特に伝えたかったのは、社会に出ると主体的に動くことが大事だということ、そしてアウトドア好きが集まるこの場所は、自分を出していい場所だと感じてほしいということでした。お二人とも真面目に取り組んでくれて、思いは伝わったと感じていますし、弊社のよさも知っていただけたと思います。今回、お二人に伝えるために業務内容や仕事に対する思いを言語化できたのは、私たちにとっても改めて業務や姿勢を振り返ることができたいい機会でした。

モンベル天理店： アウトドア用品の製造・販売、イベント企画・運営などを手掛けるアウトドアブランド「モンベル」直営店舗

天理大学で学べるキャリアはほかにも

「天理大学・モンベル共同体」が天理市から事業受託した事により、「天理駅前広場コフフン」内の施設で、学生が就業体験できるようになりました。

i CONNECT Shop

業務を通して培われた対応力。

業務は接客やSNSの更新、在庫管理、イベントのお手伝いなど、幅広く携わっています。地域の方と協力して取り組む機会も多いので、コミュニケーション能力や協調性が養われていると感じます。度胸がつき、いろんなことに積極的に参加できるようにもなりました。今後どんな進路に進んでも、さまざまな人と意見交換する作業は大切です。そこで今回身につけた力がきっと役に立つと思っています。

医療学部 臨床検査学科 3年次生
髙田 穂乃香さん

i CONNECT Shop： 天理大学生が天理市の名産品などを紹介・販売して、地域の魅力を発信する、天理市のアンテナショップ。

観光コンシェルジュ

自分の立場を活かして実践力を強化。

留学生という立場から、訪日観光客の気持ちが理解できる点を活かせると考え、活動に参加しました。主な業務は観光案内所での観光スポット紹介や交通案内です。相手の状況や要望をその場で判断し、柔軟に対応する実践力が求められました。将来、観光業やサービス業などで働く際に、現場で培った対応力や責任感が活かせると感じています。

国際学部科目等履修生（中国文化大学/短期留学生）
林 森遠（リン・シンエン）さん

観光コンシェルジュ： 天理駅前南団体待合所で、学生がコンシェルジュとして天理市の観光案内をする取り組み。

トヨタユナイテッド奈良株式会社

地域と未来をつなぐ、実践型インターンシップ。この春、天理大学生の新しい学びが始まります。

2025年12月、天理大学は「天理市、天理大学、トヨタユナイテッド奈良株式会社との包括連携協定に関する協定」を締結しました。これをきっかけに、今春から天理大学生のインターンシップ受け入れ先として、トヨタユナイテッド奈良の各店舗が加わります。教室の中だけでは得られない経験を通して、自分の強みや将来の可能性を発見する。地域とつながり、社会と向き合う学びの第一歩を踏み出してみませんか。

夢を叶えた先輩たち

希望の就職先から内定を得た先輩たちは、キャリア支援課のサポートを活用しながら就職活動に取り組んでいました。

本番の自信につながった履歴書添削や面接対策。

昨春、建設機器や運搬機器の販売・サービスを行うコベルコ建機日本株式会社への就職が内定した内水さん。大学生活は部活と中国語の勉強に熱中しつつ、就職活動も早い段階から意識し始めました。

「高校で所属していた卓球部は天理大学と練習試合をする機会が多く、切磋琢磨する先輩方の姿を見て天理大学へ進学したいと思うようになりました。同じ頃に卓球を通して中国語に興味を持ち始め、オープンキャンパスで中国語専攻の先生のお話を聞き、受験を決意しました。入学後は卓球部の活動と中国語の勉強を両立することを目標に、隙間時間を見つけては発音の練習や課題に取り組み、2年次になると就職についても考えるようになりました」。

そこで内水さんはキャリア支援課に足を運ぶようになりました。まずは自分を知るため、適性検査を受けるようすすめられたことで職種を絞れたと振り返ります。

「検査で自分が営業職に適していると知ることができました。その上で、自分でも自己分析に努めました。例えば人生のターニングポイントだと感じる出来事を書き出したり、周りの人に自分についてのアンケートをとったりして、自分への理解を深めたんです。最終的に、自信を持って営業職をめざすことができました」。

業界を決めたのは、中国語専攻の授業がきっかけだったという内水さん。

「授業の一環で、奈良マラソンのボランティアや東大寺の通訳ボランティアに参加した経験から、もっと身近なところで社会貢献したいと考えるようになりました。その中で『暮らしの中で何げなく使っているものを支えたい』という思いが芽生え、生活に不可欠な基盤を支えるインフラ業界にたどり着いたんです」。

その後は会社訪問や面談など企業研究に取り組み、キャリア支援課もフル活用。めざす業界で内定を受けました。

「キャリア支援課ではエントリーシートや履歴書の添削をしていただき、面接の礼儀作法も丁寧に教えていただきました。おかげで、面接当日は堂々と自分の言葉で受け答えができたと思います。コベルコ建機日本株式会社は、燃費を大幅に削減したハイブリッドショベルや極低騒音技術を搭載した製品を開発していて、建設現場の環境負荷を削減しています。私は営業職として商品を普及させることで、地球温暖化防止という課題や、より豊かな社会の実現に貢献できればと考えています」。

内水 千咲子さん　国際学部 外国語学科 中国語専攻 4年次生 <内定先>コベルコ建機日本株式会社

キャリア支援課からのエール

内水さんは、留学中から業界研究や企業研究に積極的に取り組み、情報収集を重ね、ご自身が納得できる就職先を見つけるために、一生懸命努力されていました。キャリア支援ルームを活用して進路相談や面接練習を行うだけでなく、窓口へも頻繁に足を運び、焦りや悩みを相談してくれることもあれば、選考方法であるプレゼンテーションについて、生き生きと語ってくれることもあり、いつも全力で就職活動に向き合っていた姿が、とても印象に残っています。悩みながらも真剣に就職活動に取り組んだ姿勢は、社会に出てからも必ず活きてくると思います。これまでの努力を糧に、内水さんらしく歩んでいってください。これからのご活躍を応援しています。

[サポートしたこと] 進路相談、面接対策、履歴書・エントリーシートの添削、選考課題の精査など

吉田 祥子さん

大学での実践教育とサポートで納得のいく進路選択に。

「高校1年生の頃、天理よろづ相談所病院のふれあい看護一日体験に参加したことが、将来を考えるきっかけになりました」。

高校の頃から将来の仕事について、強い想いがあったという平松さん。この春から天理市内にある天理よろづ相談所病院で、看護師として社会人への一歩を踏み出します。

「そのふれあい看護一日体験で、末期がんの患者さんの足浴をさせていただいた際、苦しそうだった患者さんの表情が和らいだ気がしてうれしくなりました。ご家族に『立派な看護師さんになってね』と言葉をかけていただいたことも心に残り、看護師になりたいと強く思いました。そこで、県有数の先進医療機関である同病院で臨地実習ができ、現役の病院スタッフが非常勤講師にいらっしゃるところに魅力を感じて、天理大学の医療学部（入学当時：天理医療大学）に進み、実践を積みました」。

天理大学医療学部は同病院と連携して実践教育を実施しており、キャンパスに隣接する病院での実習を通して、全人的医療とチーム医療を学ぶことができます。

「実習を通して、看護師は患者さんの命や生活を支える責任の大きい職業であると実感しました。患者さんの変化に気付く観察力や、思いを汲み取る姿勢が求められますし、心理的ケアの重要性を強く感じたのも大きな収穫でした。また、大変な実習を仲間と励まし合いながら乗り越えた経験は、協調性や困難に立ち向かう心の成長にもなり、就職活動でも活かされました」。

同病院への就職を目標に、キャリア支援のサポートを活用しながら計画的に就職活動に取り組み、納得のいく進路選択につなげることができたという平松さん。

「日々の授業や実習に真摯に取り組み、積み重ねてきたことが結果につながったと感じています。キャリア支援のサポートでは、特に面接対策と履歴書の添削が役に立ちました。自分自身を客観的に振り返り、自分の経験や強みを言語化することができましたし、自分の考えを言葉にして伝える力も身に付きました。そのおかげで面接でも自信を持って挑むことができたと思います。これから社会人として常に学ぶ姿勢を忘れず、一人ひとりに寄り添った看護を実践できる看護師として社会に貢献したい」、と平松さんは目を輝かせます。

平松 花梨さん　医療学部 看護学科 4年次生 <内定先>天理よろづ相談所病院

キャリア支援課からのエール

平松さん、ご卒業おめでとうございます。学生時代に積み重ねてこられた学びや姿勢は、これから医療の現場で働く上で大きな力になると確信しています。キャリア支援課として、面接対策やエントリーシートの添削などを通してご相談に関わる中で、平松さんが一つひとつの課題に真剣に向き合い、着実に成長されていく様子を近くで見ることができました。その姿勢は、社会に出てからも必ず活きてきます。新しい環境では、期待と同じくらい不安もあるかもしれません。ですが、困った時は周りを頼りながら、焦らず、一歩ずつ進んでください。

[サポートしたこと] 面接対策講座、選考スケジュールの確認、面接時のマナー指導、模擬面接の実施、履歴書の添削など

岡本 啓汰さん